

4横綱豪華揃踏み

紙相撲新聞

第163回本場所
初日～三日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

紙相撲史上初、4横綱の土俵入り

本割でも全員白星先行で不安の声を払拭

〔第百六十三回本場所初日～三日目〕

まだ30度を超える残暑の9月21日に、第163回本場所の初日が幕を開けた。今場所は先場所優勝の大関大神楽が横綱に昇進し、日本紙相撲協会史上初の4横綱の番付となった。

大相撲は15日制で幾度も4横綱の時代があったが、紙相撲は11日制なので4横綱はまずあり得ないと言われてきた。ところが、横綱若ノ嶋と春ノ翔の休場もあって、大関で好成績を残した大神楽が昇進に相応しい成績をあげて横綱に推挙され、遂に4横綱が実現することとなった。



↑豪華4横綱の揃踏み。今回特別に揃って土俵に上がってお披露目をした。千秋楽もこの雄姿が見れることを切に願う。



↑左上から千代鈴（春日根）、若ノ嶋（錦風）、春ノ翔（桐壺）、大神楽（磯ノ海）

紙相撲ファンが楽しみにしていたのが初日の4横綱の土俵入り。とりわけ新横綱大神楽の初めての土俵入りに注目が集まった。

磯ノ海親方は仕事が忙しく、大神楽の網と化粧まわしの製作に十分な時間が取れず、今朝の午前3時にやっと出来上がったとのこと。春ノ翔も4場所ぶりに初日から出場。

十両の初日の取組が終わり、土俵入りを前に4人の親方（春日根、錦風、桐壺、磯ノ海）は準備に大わらわ。

千代鈴、若ノ嶋、春ノ翔、大神楽の順に東西入れ替わっての土俵入りが行われ、館内から大きな歓声と拍手が送られた。

注目の大神楽は「伊勢大神楽講社」から贈られた三つ揃いの化粧まわしを締め、緊張な面持ちだったが何とかならずに初日の土俵入りを務めた。

今場所は史上初の4横綱の番付となり、この4横綱による優勝争いが期待される。

注目の4横綱は千代鈴と若ノ嶋が盤石の相撲を見せたが、春ノ翔が初日に夢ノ花に、大神楽が二日目に網乃花に敗れ2勝1敗での発進となった。春ノ翔と大神楽に土がついたものの、4横綱はまずまた



大神楽○（寄り切り）●若 佑 春ノ翔○（寄り切り）●勝ノ川



このに加わってきそ
な神門。大関2場所目
の西門。今場所、元
の2勝1敗とまずま
ずのスタートを切った。



西神門○（寄り切り）●麒麟王

休場明けで土俵勤が戻っているか心配され、春ノ翔も初日こそ不覚を取ったが二日目からは本来の相撲を見せ、先場所からくも千秋楽で勝つ相撲で親方も安心させた。

休場明けで土俵勤が戻っているか心配され、春ノ翔も初日こそ不覚を取ったが二日目からは本来の相撲を見せ、先場所からくも千秋楽で勝つ相撲で親方も安心させた。



四季嶋●（押し倒し）○若ノ嶋



千代鈴○（寄り切り）●磯自慢